

## 令和3年度 第1回磐田市歴史文書館運営審議会の中止に伴う 事業報告及び意見聴取について

※新型コロナ感染拡大防止に考慮して各委員からの聞き取り方式とするとともに事務局職員への参加規模を縮小して実施しました。

- 1 日 時 令和3年10月6日(水) 10:30~11:30
- 2 場 所 磐田市竜洋支所 2階 会議室
- 3 出席者 市歴史文書館運営審議会委員 3名  
小杉会長 高橋副会長 高尾委員
- 4 事務局 教育委員会教育部職員 3名  
木村館長 石津主査 笹竹年度会計職員
- 5 次 第 開 会  
委嘱状交付  
報告事項  
協議事項  
その他  
閉 会

### 報告事項

#### (1) 非現用公文書等の受入選別状況について

##### 【事務局からの説明】

- ・令和3年1月から3月の非現用公文書の受入数、選別数、及び前年度同時期との比較を報告。  
＜選別数減少の要因＞ 例年、年度初めに移管文書の指定作業を行っていたが、新年度の早い時期から受け入れをし、各部署での書類紛失・誤廃棄などを防ぐため今年度実施。また、1階展示室の開設準備のため。
- ・令和2年度の非現用公文書の受入数、選別数、収蔵数及び前年度との比較を報告。

	受入数	選別数	収蔵数
令和2年度	2,070 ( 82)	9,831 ( 311)	40,729
令和元年度	1,626 ( 924)	3,941 (1,263)	45,219
比 較	444 (▲842)	5,890 (▲952)	▲4,490

( ) 内の数値は3ヶ月分の件数

#### (2) 歴史文書館収蔵件数について

##### 【事務局からの説明】

- ・令和2年度末及び前年度末の総収蔵件数及び増減についての報告  
 <収蔵数減少の要因> 地域資料 649 件、行政資料 279 件、一般図書 106 件、写真 453 件など増となったものの、公文書の選別作業が進み 4,490 件減となったことにより全体で 3,109 件の減となった。

	総収蔵数
令和2年度	195,423
令和3年度	198,532
比較	▲3,109

**【質問・意見】**

- ・返却数が増えているがなぜか。  
 →原課からの申し出により返却。返却したものは、上・下水道工事及び道路改良工事の契約書類書である。
- ・今後も返却数は増えていくのか。  
 →今後も返却するものがあるかと思う。

(3) 企画展について

**【事務局からの説明】**

- ・平常展の報告 2月1日～3月31日(41日間) 来館者 23人
- ・平常展は、過去の企画展の一部を使って開催しているもの。光明電鉄の展示は好評で、交流センターから講座の依頼が来ている。
- ・第24回企画展「磐田の産業史～磐田の近代を支えた茶、煙草、甘藷切干、そして銀行～」のアンケート結果を報告

**【質問・意見】**

- ・アンケート中に、「パネルの字が小さいので読みづらい。」という意見をいただいているので、今後、対応して欲しい。

(4) レファレンス利用状況について

**【事務局からの説明】**

- ・最近のレファレンス数と内容について報告。

令和2年度	令和元年度	平成30年度
150	185	187

- ・前回報告以降、池田の堤防に関すること、栗下地区の絵図の解説・歴史に関することが追加。
- ・職員の利用は、決算書・市政報告書・市勢要覧・広報紙・議会だよりの閲覧が主なもの。
- ・磐田歴史検定の影響もあり、徐々に歴史文書館の存在を知ってもらえ

るようになった。

**【質問・意見】**

- ・平成 28 年度のレファレンス数が突出しているのはなぜか。  
→企画展で光明電鉄を実施した年。鉄道ファンが多いということだと思う。

(5) 地域史資料の受入整理状況について

**【事務局からの説明】**

- ・令和 2 年度中の寄贈者及び寄贈資料について報告。

寄贈者	点数	内容
成瀬美佐子	219	近代資料（由緒書、書簡等）
一言自治会	139	近代資料（自治会の記録）
名倉喜美子	4	松山源八日記ほか

**【質問・意見】**

- ・なし

(6) 各種事業について

**【事務局からの説明】**

- ・最近、講座の依頼が増えている。交流センター長会議においてアピールした成果だと思う。
- ・目録検索システムを導入した。約 20 万点もの資料を保管しており、急なレファレンスの際、資料検索に時間を要することもあったが、システム導入後はスムーズな対応が可能となった。  
現在、当館の中だけで利用しているが、市の文書管理システムとの連携 WEB を使った目録検索のシステム構築が今後の課題である。
- ・当館でデジタル化した資料を電子図書館に掲載している。
- ・来年度、新たに古文書ボランティアを立ち上げようと考えている。  
初級レベルから始め、将来、当館の整理作業員として活躍してもらえ  
る人材を発掘したい。

**【質問・意見】**

- ・なし

**協議事項**

令和 3 年度第 25 回企画展の内容について

**【事務局からの概要説明】**

- ・開催期間 令和 3 年 11 月 1 日～令和 3 年 12 月 17 日

- ・テーマ 歴史史料から見た磐田の近代教育。
- ・本年は、学制発布 150 年とながふじ学府言った以降の開校を記念して開催する。主に校務日誌、沿革誌から近代教育の相後を探っていく。
- ・当館での企画展終了後は、1 月中頃に中央図書館、2 月頃に旧見付学校で展示を行う予定。

#### 【質問・意見】

- ・題名を聞いて何を思うか。小学校がテーマとなると思うが「ながふじ学府」は小中学校、この関係性をどう考えるのか。
- 学制発布からは小学校を中心に、戦後から小中一体校になるまでの変遷について触れていく。

#### 【事務局から内容説明】

<江戸時代の教育：学制発布以前の教育について

- ・当該期の資料が少ない。
- ・マチの寺子屋教育とムラの寺子屋教育を比較する。
- ・現在、市内の筆子塚の現地調査を行っている。
- ・師匠と筆子についてとりあげ、師匠は僧や教養人であったことや筆子の通った範囲などを紹介する。
- ・「磐田市史」、「人づくり風土記」静岡、「福王寺にみる寺子屋教育」で「江月堂門人帳」を基に当時の寺子屋教育を分析し、パネルを作成する。
- ・私塾では、「遠州国学」について触れ、賀茂真淵、八木美穂、大久保忠尚のほか磐田文庫について紹介する。
- ・近世の庶民の識字率は大きな課題であるととらえている。

#### 【質問・意見】

- ・福王寺は見付のはずれであり、ムラと思う人がいないか。
- 福王寺・江月堂の筆子の内容を見ると半数以上が見付出身者であり、マチの寺子屋というイメージを出していきたい。
- ・小杉委員にお聞きしたい、当時の識字率はどの程度であったのか。
- 町民や農民は 60%程度か。道標は全員が読めること、商人は勘定帳を取り扱うので数字・漢字が読めないと商売にならない。ムラの中でも半数以上の人が読み書きをできたのではないかと思う。
- ・レベルの差がものすごくあったのではないかと思う。教育熱心な親の子は勉強させてもらえたと思う。ムラで 2～3 人読み書きができる人がいて、その人から教えてもらい、皆が何とか理解していたのではないか。明治 20 年代には、ほぼ皆、字が読めたのではないか。

### 【事務局からの内容説明】

<学制発布以後の教育について>

- ・学制発布から戦後までの教育に関する制度やその変化について、校務日誌や沿革史から見た学校生活を時代の流れに沿ってとりあげていく。
- ・教育に関する制度は、学制から教育令・教育勅語・小学校令・国民学校令・教育基本法までとりあげ、現在まで繋がる教育史の大きな流れや制度内容を来館者に紹介する。
- ・学校生活の様子は、校務日誌や沿革史を中心にとりあげ、具体的には、「行事」「災害」「感染症」「青い目の人形」「二宮金次郎像」「疎開児童」
- ・校務日誌や沿革史は現在、調査中。
- ・井通小学校の校務日誌は、明治10年度から昭和25年度までのものが残されていることが新たに分かった。他校には残されていない貴重な記述も散見され、本企画展を開催する上で重要な資料となると考える。
- ・新しい教育の形として、小中一貫教育学府制度についてもとりあげる。

### 【質問・意見】

- ・資料をどのように並べるつもりなのか。資料がありすぎて選ぶのが大変ではないか。
- 教育は誰もが関わりのあるテーマであるので、5市町村まんべんなく紹介したい。来館者が自分の地域が分かるような展示にしたいと考えている。
- ・それは良いこと。来館者が自分の地域の様子が分からないと寂しいと同時に見ている面白くない。

### その他

第26回企画展について

#### 【事務局からの説明】

- ・来年度の企画展についてご意見をいただきたい。  
現在の候補として『秋鹿家と磐田』、秋鹿家関係書類の修繕が今年度で終わる。完成記念として近世における秋鹿家について文献資料とともに探るというもの。他に『徳川家康と磐田』、再来年の大河ドラマ「どうする？家康」が始まるので、家康の初期の舞台である『磐田』を題材に家康関係文書を展示するもの。

#### 【質問・意見】

- ・磐田での家康は、戦に負けたものばかりだ。。。。。

今回は、各委員からの意見聴取の場であるため、第26回企画展については、磐田市歴史文書館運営審議会で協議していただくこととした。

以上、運営審議会終了。

- 1 日 時 令和3年10月8日（金） 10：00～11：00
- 2 場 所 磐田市竜洋支所 2階 会議室
- 3 出席者 市歴史文書館運営審議会委員 1名  
玉田委員
- 4 事務局 教育委員会教育部職員 3名  
木村館長 石津主査 笹竹年度会計職員
- 5 次 第 開 会  
委嘱状交付  
報告事項  
協議事項  
その他  
閉 会

#### 報告事項

(1) 非現用公文書等の受入選別状況について

(2) 歴史文書館収蔵件数について

##### 【事務局からの説明】

- ・報告内容は10月6日と同じ

##### 【質問・意見】

- ・寄贈が増えているということは歴史文書館が周知されたということ  
で理解してよいか。

→自治会連合会において自治会資料の受入について案内している成果  
と考える。

- ・自治会からはどのようなものを寄贈してもらっているのか。

→一旦、全て文書館で引き取った後、選別し、歴史的資料と判断したもの  
を寄贈していただいている。

(3) 企画展について

##### 【事務局からの説明】

- ・報告内容は10月6日と同じ。

**【質問・意見】**

- ・歴史文書館以外の場所での展示はどのように行っているのか。
- 原資料の展示ではなく、パネルによる展示を行っている。
- ・身近で見ることが出来て良いこと。パネルの字が小さいという意見があるので対応していただきたい。
- 展示室の大きさの問題もあり、パネルを大きくすると、壁の面積をとることにもなり、難しいところである。

(4) レファレンス利用状況について

**【事務局からの説明】**

- ・報告内容は10月6日と同じ

**【質問・意見】**

- ・平成28年度が特に多いのはなぜか。
- 企画展で光明電鉄を実施した年、鉄道ファンより多くの利用があったもの。
- ・レファレンスの利用として大人と子供の別を把握しているか。
- 把握している。
- ・レファレンスの内容として個人的なものもみられるようだが。
- 祖先、家系図についての問い合わせが増えている。

(5) 地域史資料の受入整理状況について

**【事務局からの説明】**

- ・報告内容は10月6日とおなじ。

**【質問・意見】**

- ・なし

(6) 各種事業について

**【事務局からの説明】**

- ・報告内容は10月6日とおなじ。

**【質問・意見】**

- ・古文書解読講座が観光協会との協賛事業とはどういうことなのか。
- 観光協会からの依頼。古文書を読むことで、昔のことを知りながら施設巡りを楽しんでもらいたいという趣旨であったので事業の協力をした。これを機に古文書ボランティアへ加入していただける方

がいればありがたいとと考えている。

#### **協議事項**

令和3年度第25回企画展の内容について

##### **【事務局からの概要説明】**

- ・説明内容は10月6日と同じ

##### **【質問・意見】**

- ・なし

##### **【事務局から内容説明】**

＜江戸時代の教育：学制発布以前の教育について

- ・説明内容は10月6日と同じ

##### **【質問・意見】**

- ・この地域の識字率はどの程度であったのか。  
→資料がないのでわからないが、実際、古文書が残っていることで、村方三役と言われる庄屋・百姓代などは読み書きできたと思う。商人であればわからないと仕事にならないので理解していたと思う。村の中で、小作人とかの層になると読める程度に差があったと思う。ただ、字が読めれば良いというのであれば識字率はかなり上がる。一般には、60～70%と言われ、日本は識字率が高かったとされています。
- ・マチとムラの違いについて教えていただきたい。  
→農業を主体とした地域をムラととらえている。マチは商業・手工業を主体とした大きな括りとしたもの。ここでは、中泉や見付をマチ、それ以外をムラと表現している。

#### **その他**

第26回企画展について

##### **【事務局からの説明】**

- ・説明内容は10月6日と同じ。

##### **【質問・意見】**

- ・なし。

第26回企画展については、磐田市歴史文書館運営審議会で協議していただくこととした。

以上、運営審議会終了。